

会員拡大のお願い

土壌物理学会長
長谷川周一

土壌物理学会は1958年に土壌物理研究会として発足し、会員数は約400名と小さな学会ですが、48年の歴史を持っています。1997年までは毎年2号、それ以降は毎年3号「土壌の物理性」を刊行し、今回で102号までになりました。現在、100号までの記事が土壌物理学会ホームページでご覧になれます。「土壌の物理性」はレフェリー制度を有した学会誌です。会誌の発行は3月、7月、11月。投稿から掲載までの期間は平均8ヶ月です。

土壌物理学会は毎年1回、シンポジウムとポスター発表を行っています。シンポジウムのテーマは会員にとって有益だと考えられる最近の主要な研究トピックから選び、講師には会員、非会員を問わず適任者を選んでいきます。ポスター発表では、情熱に燃える院生から完成の域に達した研究者まで多くの方が発表しています。若い研究者には、自分の身近な組織外の専門家の意見を直接聞くことができる絶好の機会となっています。

会員の皆さんにお願いがあります。皆さんのお知り合いの方に声をかけていただき、会員数を増やし、学会を多に活性化させたいと考えております。私達の学会の仲間としてふさわしい方を是非、ご紹介下さい。

非会員の方でこの文章に目をとめて下さった方がいたら、是非、私達の学会へお誘いします。最近の土壌物理研究の流れを見ると、農業生産に関連した研究に加え、環境問題にかかわりのある研究が目につきます。環境研究においても土壌物理の得意とする動態の解明やモデル化が、問題の解決の鍵を握っている場面も少なくありません。土壌物理学会はその発足の経緯から農学系の会員が多数を占めていますが、今後、さらに多様な研究者から構成されることを望んでいます。あなたも土壌物理学会員となり、一緒に研究を進めませんか、心より歓迎いたします。

入会情報とバックナンバーの記事は土壌物理学会のホームページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/jssp3/>) に載せています。是非ご覧ください。さらにお聞きになりたい場合は成岡庶務幹事 (spsyomu@ml.affrc.go.jp) におたずねください。